

令和6年度  
福井県文書館  
くずし字入門講座

第1回  
身近なくずし字①

6月2日（日）10時00～11時30分  
福井県文書館研修室



# 令和6年度くずし字入門講座

第1回 2日(日)  
身近なくずし字①

第2回 9日(日)  
身近なくずし字②

第3回 16日(日)  
頻出する文字・言い回し

福井県文書館

## くずし字入門講座

初心者向けの  
講座ですよ!



文書館収蔵の資料を教材に、地域の歴史に触れながらくずし字の読み方を学びます。身近なくずし字から読み解いていきますので、初心者にも入りやすい内容です。

【日時・テーマ】

第1回 6/2(日) 身近なくずし字(1)

第2回 6/9(日) 身近なくずし字(2)

第3回 6/16(日) 頻出する文字・言い回し

毎回 10:00~11:30

【会場】福井県文書館研修室

【定員】40名(要申込・先着順)

※閲覧カウンター、電話、メール、FAX、右下のFormsで  
受付いたします。



福井県文書館 FUKUI PREFECTURAL ARCHIVES 福井県福井市下馬町 51-11  
開館時間 9:00~17:00 休館日 毎週月曜日、第4木曜日

☎ 0776-33-8890 📠 0776-33-8891 ✉ bunshokan@pref.fukui.lg.jp

🌐 <https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/bunsho/index.html>



# 0. 現代のくずし字（手紙）

高田 富様

福井放送局 放送部

宇庭代

「FG50年とわたし」資料作成係。

前略ごめんくださいませ。

「FG50年とわたし」資料作成にあたりましては貴重なお写真のご送付をいただきありがとうございました。遅くなりましたが同封お返し申し上げます。

お受取りくださいませ。ご協力のほど厚くお礼申し上げます。

またその後の放送ご出演をいただき重ねてお礼

申し上げます。その■の写真宇庭より預りましたので

同封お送り申し上げます 併せてお受取りくださいませ。

宇庭は8月始めの異動で東京転勤になり代行させて

いただきました 今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

福井放送局 放送部 気付

荒井登み子

高田 富様

福井放送局 放送部

宇庭代

「FG50年とわたし」資料作成係。

前略ごめんくださいませ。

「FG50年とわたし」資料作成にあたりましては貴重な

お写真のご送付をいただきありがとうございました。

遅くなりましたが同封お返し申し上げます。

お受取りくださいませ。ご協力のほど厚くお礼申し上げます。

またその後の放送ご出演をいただき重ねてお礼

申し上げます。その■の写真宇庭より預りましたので

同封お送り申し上げます 併せてお受取りくださいませ。

宇庭は 8月始めの異動で東京転勤になり代行させて

いただきました 今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

福井放送局 放送部 気付

荒井登み子

日本放送協会

A0502-00126

福井県文書館

# 第1回の内容

1. ラベル
2. 引札（広告）
3. 短歌①
4. 書
5. 献立
6. 短歌②

# 1. ラベル



福井県文書館



E0123-00016



# 1. ラベル①



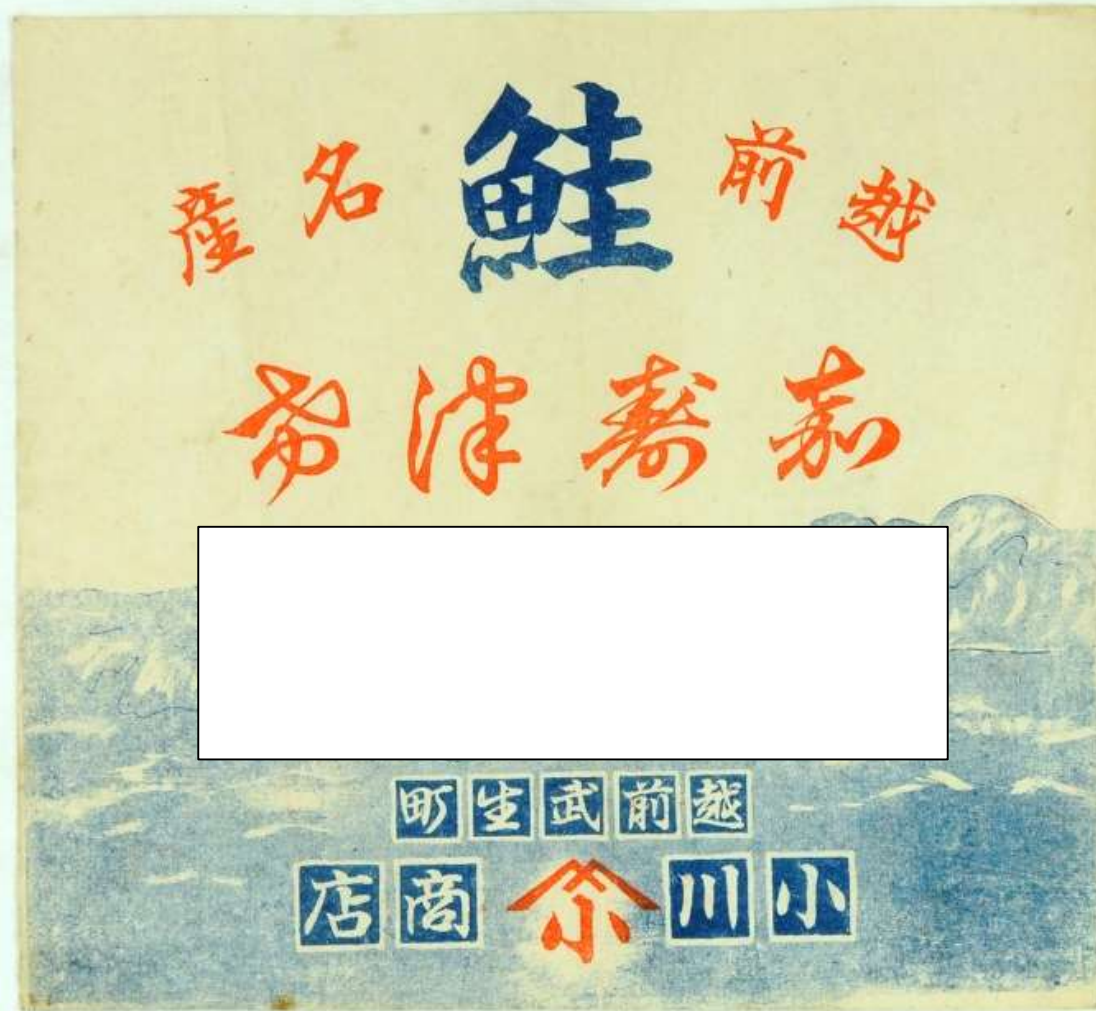
# 1. ラベル②



御和  
可免  
○  
○

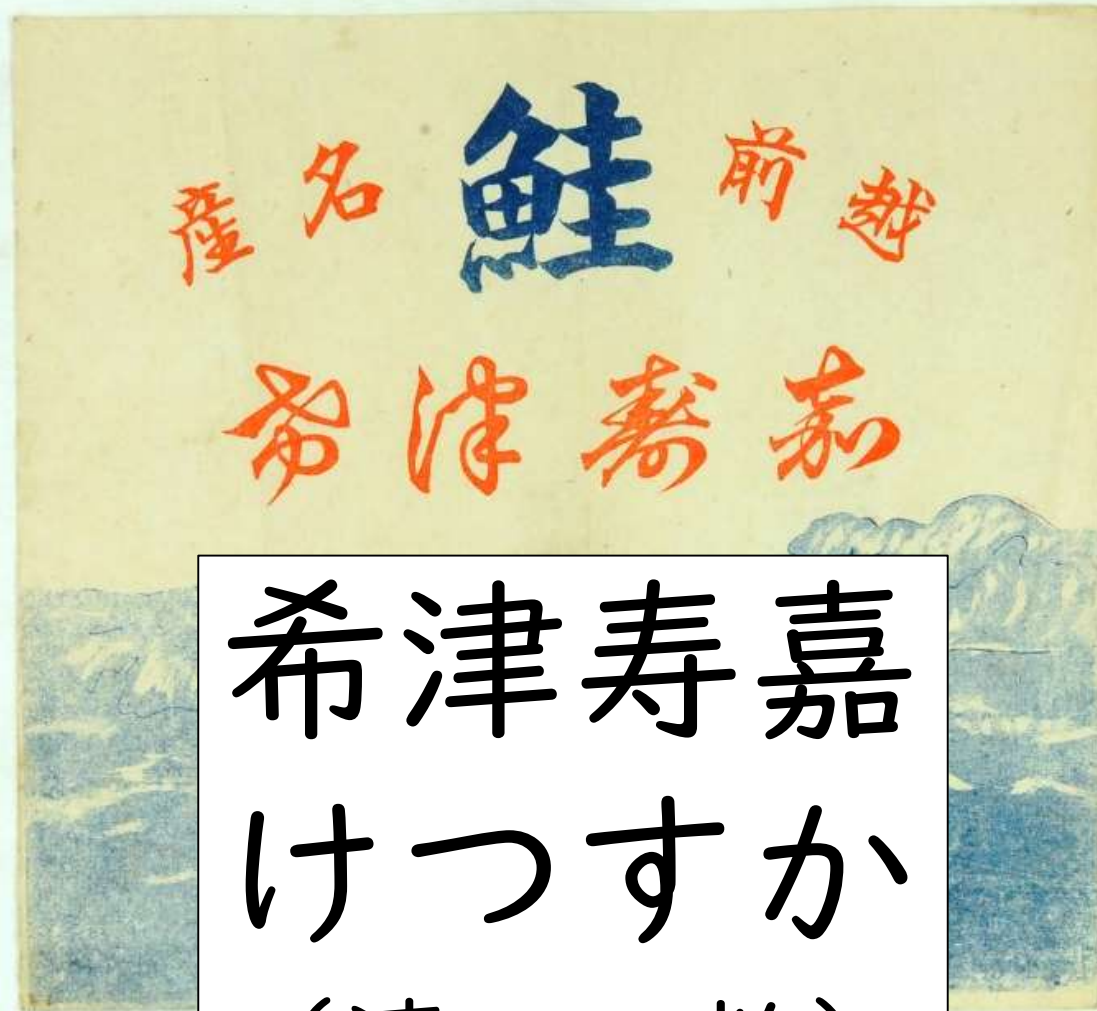
おわ  
かめ

# 1. ラベル③ (問題)





# 1. ラベル③ (解答)



嘉壽津希  
かつすけ  
(漬 粕)



# 2. 引札 (広告)





# 2. 引札 (広告) ①

37-00649

引風の妙薬  
乃の



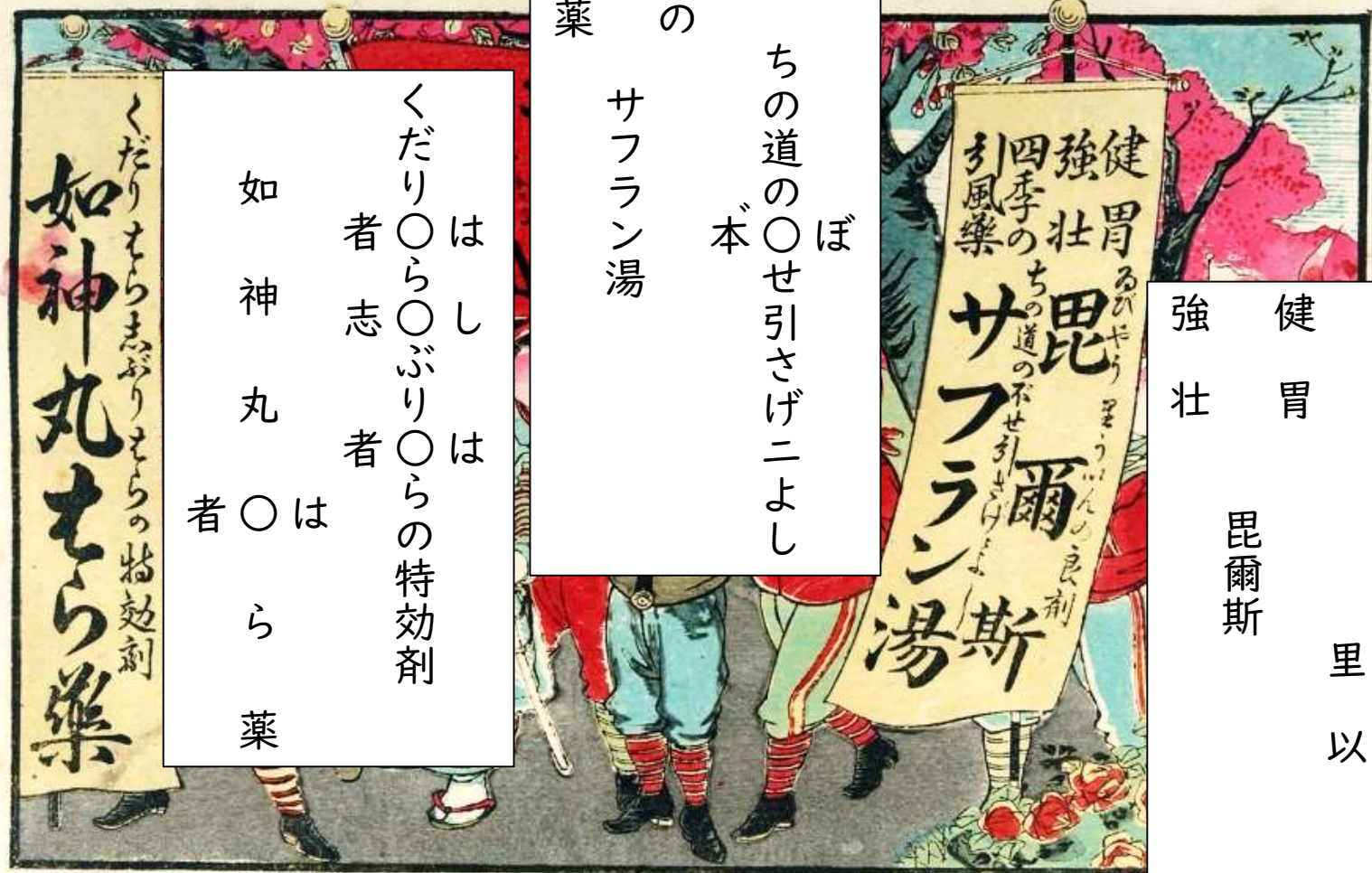
大人小児〇つさまし  
ね  
金匱救命丸

くだり〇ら一切ニよし  
は  
者  
は  
〇  
者  
ら  
薬  
者  
如  
神  
丸

B000371000649 松田三左衛門家文書「福神楽隊廣告」年未詳

# 2. 引札（広告）②

B0037-00650



四季の  
引風薬

ちの道の○せ引さげニよし

本<sup>ぼ</sup>

サフラン湯

くだり○ら○ぶり○らの特效剤

はしは

者志者

如神丸

○は

者○ら

薬

健胃

強壯

昆爾斯

るびやう

○う○んの良剤

りい

里以



## 2. 引札（広告）③





# 3. 短歌①



C0037-00605  
 福井県文書館

C0037-00605吉川充雄家文書「(大和言葉、新女訓抄、婚礼、百人一首など)」年未詳



# 3. ちはやぶる… (問題)



- |        |        |    |   |   |     |     |    |        |        |    |    |     |     |     |
|--------|--------|----|---|---|-----|-----|----|--------|--------|----|----|-----|-----|-----|
| ○くゝ○と○ | ○くれ○る○ | ○川 | ○ | ○ | ○代も | ○早○ | 在○ | ○くゝ○と○ | ○くれ○る○ | ○川 | き○ | ○代○ | ○ふ○ | ○平○ |
|--------|--------|----|---|---|-----|-----|----|--------|--------|----|----|-----|-----|-----|

# 3. ちはやぶる… (解答)



在原業平朝臣

不留

千早ふる

振

毛

神代も

毛

幾可春

きかず

幾可春

堂川多

たつた川

堂徒多

加良久礼奈为尔

からくれなゐに

加良久礼奈为尔

久 類止盤

水くづるとは

久 類止八



# 4. 書 (ふるさと文学館)



V0002100152高見順「天」[掛軸]

昭和24年(1959)6月(福井県ふるさと文学館所蔵)



V001100068三好達治「よの字の吉田の年のくれ」[掛軸]

年未詳(福井県ふるさと文学館所蔵)



# 4-2. 高見順の書

天

高見順

乃

ど〇辺からが天であるか  
鳶の飛んでゐる辺は天であるか

乃

天

人〇眼に隠れ〇  
こゝに

天

静かに熟れ〇行く果実がある  
おゝその果実の周囲は

天

既に天に属し〇ゐる

天

高見順

どわがらが天であるか

鳥の飛んでゐるは天であらか

人の眼に隠れ

静かに熟れ行く果実がある

おゝその果実の周囲は

既に天に属してゐる

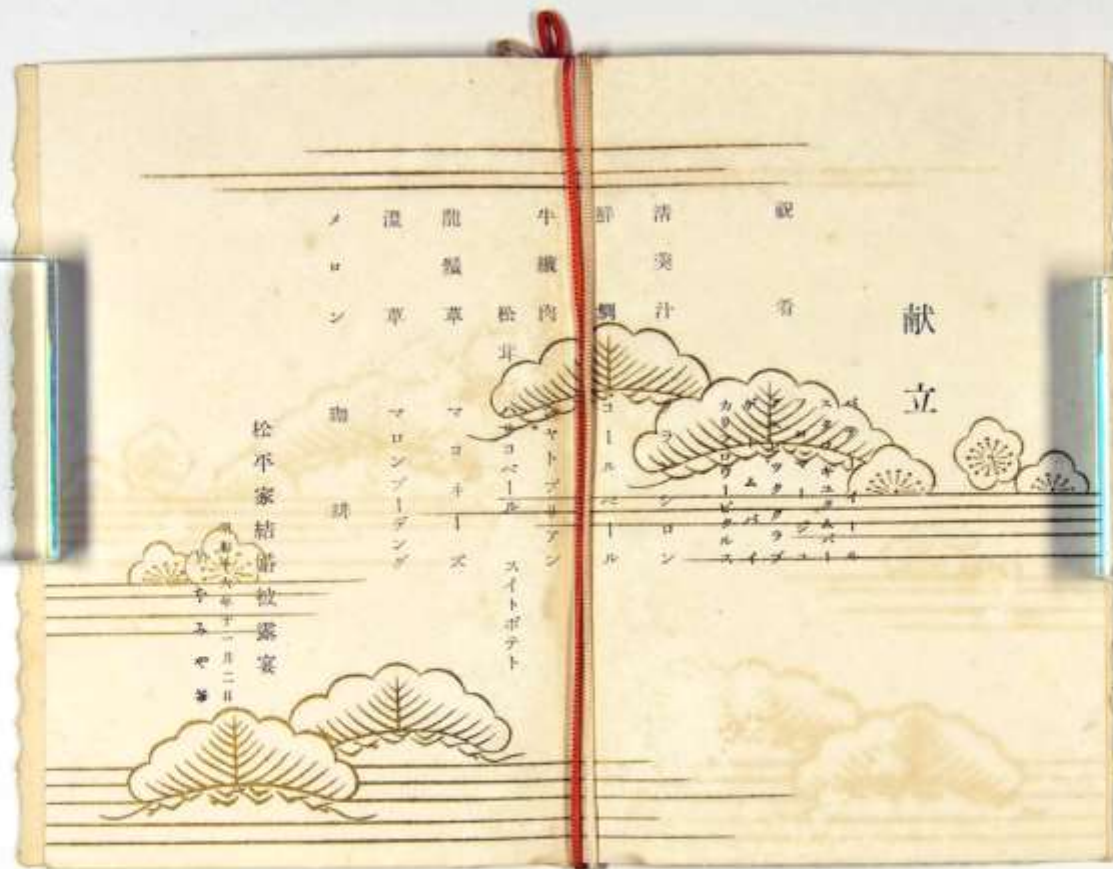
# 5. 献立



A0052-01688加藤竹雄家文書「献立（松平家結婚披露宴）」昭和16年（1941）11月2日



# 5. 献立①



福井県文書館



A 0052 - 01688

# 5. 献立②

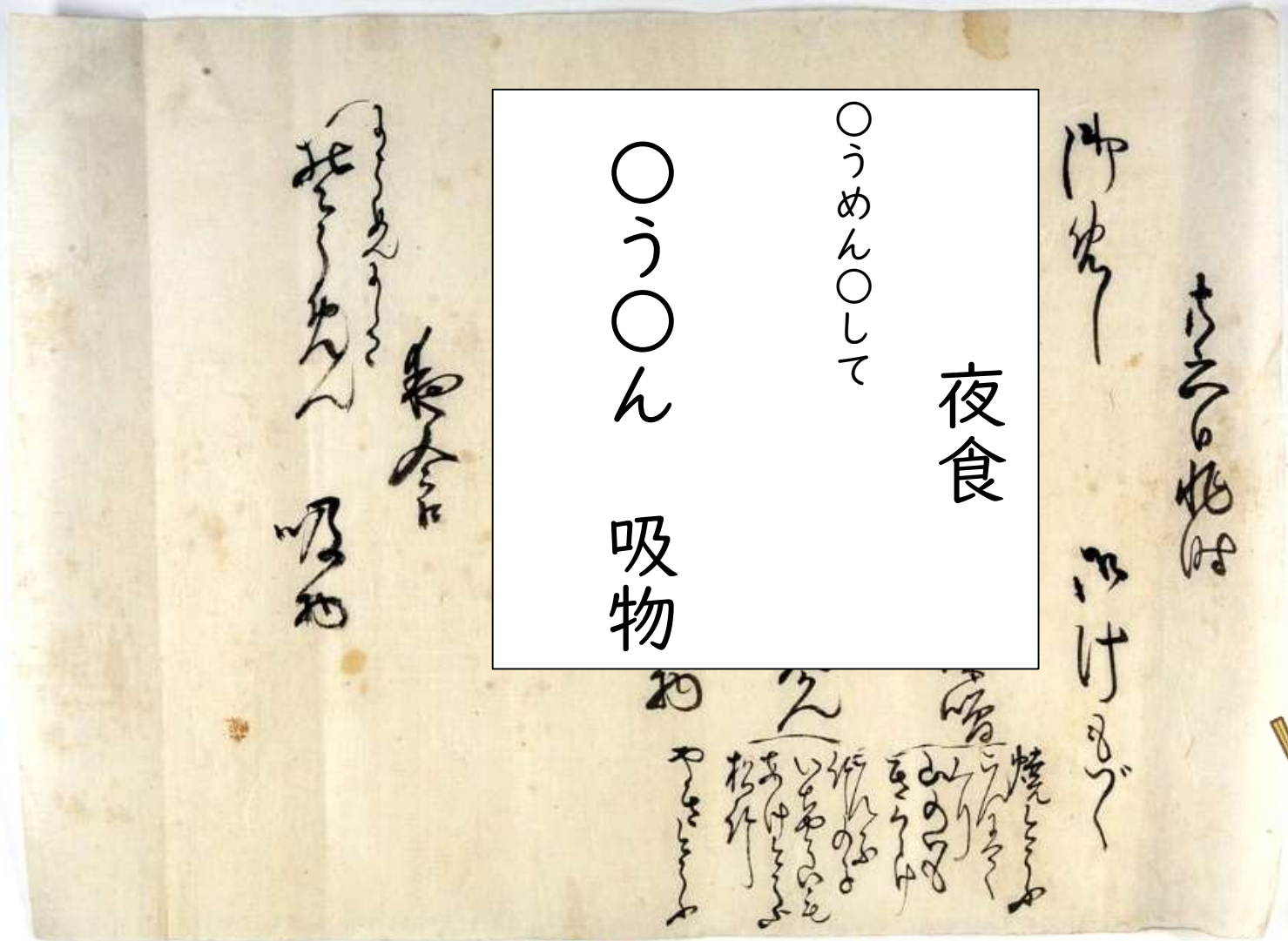
御免し	なし	志やう可	大こん	か多うり	ひこん尔やく
酔阿へ	な	志やう可	大こん	か多うり	ひこん尔やく
白あへ	な	志やう可	大こん	か多うり	ひこん尔やく
阿へ物	な	志やう可	大こん	か多うり	ひこん尔やく
飛ら皿	な	志やう可	大こん	か多うり	ひこん尔やく
引物	な	志やう可	大こん	か多うり	ひこん尔やく
かもうり	な	志やう可	大こん	か多うり	ひこん尔やく
阿ん可け	な	志やう可	大こん	か多うり	ひこん尔やく

御汁	もづく	焼とうふ	こん尔やく	くり	山のいも	きくらけ	こんふ	竹の子	いちやういも	あけとうふ	松竹
御汁	もづく	焼とうふ	こん尔やく	くり	山のいも	きくらけ	こんふ	竹の子	いちやういも	あけとうふ	松竹
練味噌	もづく	焼とうふ	こん尔やく	くり	山のいも	きくらけ	こんふ	竹の子	いちやういも	あけとうふ	松竹
志ゆん可ん	もづく	焼とうふ	こん尔やく	くり	山のいも	きくらけ	こんふ	竹の子	いちやういも	あけとうふ	松竹
吸物	もづく	焼とうふ	こん尔やく	くり	山のいも	きくらけ	こんふ	竹の子	いちやういも	あけとうふ	松竹
やきとうふ	もづく	焼とうふ	こん尔やく	くり	山のいも	きくらけ	こんふ	竹の子	いちやういも	あけとうふ	松竹

Handwritten Japanese calligraphy on aged paper, showing various characters and phrases in cursive style. The text is arranged in vertical columns, corresponding to the printed labels in the adjacent boxes. The characters are written in black ink on a light-colored, slightly stained paper.

福井県文書館 NO055-00073

# 5. 献立② (問題)



おうめん〇して

夜食

〇う〇ん

吸物





# 5. 献立② (解答)

Handwritten text on a scroll, including a central boxed area with printed text and surrounding cursive calligraphy.

楚 免  
○う○ん  
吸物

そ め

夜食

に  
○うめん○して  
に

尔  
尔



# 6. 短歌② (県立図書館)



T0001-00024 福井県立図書館貴重図書「志濃夫廼舎歌集三四」

明治11年(1878)8月29日(福井県立図書館所蔵)



T0001-00131 福井県立図書館貴重図書「橘曙覧全集」

明治36年(1903)9月29日(福井県立図書館所蔵)

# 6. たのしみは…①

たのしみは草のい○りの 庭敷ひとりころ○静めをると○  
 多能 三 保 越 起

紅葉勝華

さといへとほとくすけもほしむうろてふうれく龜山のいろ

世の中のありさぬ思ひふけりて

せうでおちり涙もいまは盡きて空うちあふまかす泣取とも

府中よとれして貫志氏こやともとりなるまつ佐

く木久波紫主角鹿子物をもとて此里はまきと

あともうはあのと政ともうの夜あふると

をうけつともうもは夜ふくまて物語りしなり

かゝころとむとて昔

中におをつとをいよせてゆは別れむうは知とてあふ

短冊もあふ語りてとこはどて

獨樂吟

とれりとは竹のいりりの庭敷ひとりころあ静うとると



# 6. たのしみは…②

たのしみは  
 ○のし○○  
 多 三ハ  
 朝おきいて、昨日まで 無りし花の 咲け○見る時  
 累

たのしみは  
 ○○し○○  
 多乃 三八  
 (ももか)  
 ねれ ら おもし  
 成○ぬ詩の ふと○○○○ろく 出きぬ○時  
 年連 良 於毛之 留

い此一はそひつのもたまらぬ倒をゆき起すも知くそ蘇一昔  
 のしこば珍一き昔人うもるも始り一ひ花ひろけく昔  
 され一は紙をひうけてと筆の思ひの外ニ能くかけ一昔  
 さ乃一は百日ひく○と成ぬ詩のふとねりうく出きぬ昔  
 とのしは妻子むりまうくうらむ頭ふくへて物をくく昔  
 と乃一は物孤くせて善き價惜いけとぬく人のくく昔  
 と乃一は空暖くはくち晴一昏株の日よ出てありく昔  
 のしこハ朝おきいて昨日まで無り一花の咲けふ見く昔

志摩夫退舎歌集三、卷  
 〇十五

# 6. たのしみは…③ (問題)

〇〇し〇は 空暖〇に うち晴し 春秋の日〇 出てありく時

とれしは門賣りありく 賣買て意ふ 鑑の香を鼻に 嗅く 昔

〇のし〇は 妻子む〇ましく うち〇とひ 頭〇〇へて 物をくふ時  
 (めこ) (かしら)

あろしは意ふの 然山水の あけり 忘れりに 見てありくとき

〇〇し〇は 紙をひろけて と〇筆の 思ひの外〇 能く〇けし時

い此しはそひつのもよら 倒をゆり 利すも 知くて 蘇し 昔  
 のししは 珍しき 昔人うらも 始め一ひ 尻ひろけし 昔  
 とれしは 紙をひろけて と 筆の 思ひの外 能く かけし 昔  
 と乃しは 百日ひく こと 成る ぬ 誦のふと ねり たく 出まぬ 昔  
 とのしは 妻子むり うれし くら けし 頭ふく へて 物をくふ 昔  
 と乃しは 物 珍く せて 善き 價惜 せ けと ぬく 人のく けし 昔  
 と乃しは 空暖く は うち 晴し 春 殊の日 出 出て ありく 昔  
 とのしは 朝 ぬき いて 昨日 まで 無り せ 苔の 咲け 見え 昔

T 000 1 - 000 24 - 003



# 6. たのしみは…③ (解答)

たのみ  
 ○○し○は 空暖○に うち晴し 春秋の日○ 出てありく時  
 多乃三 可 尔

とれしは門賣りありく 賣買て意ふ 鑑の香を鼻に 嗅く 昔

たのみ (めこ) っ っ なら  
 ○のし○は 妻子む○ましく うち○とひ 頭○○へて 物をくふ時  
 多三 川 徒 奈良

あろしは意ふの 然山水の あふり 忘れうに見て ありくと 昔

たのみ  
 ○○し○は 紙をひろけて と○筆の 思ひの外○ 能く○ けし時  
 多能三 流 二 加

いれしはそひつのもよ  
 いのしはば 珍き昔人  
 とれしは 紙をひろけて と 筆の 思ひの外 能く かけ 昔  
 と乃しは 百日ひる こと 成る ぬ 誦のふと ねり たく 出ま 昔  
 とのしは 妻子むり こと 成る ぬ 頭ふく へて 物をく 昔  
 と乃しは 物 珍き せて 善き 價惜 けと ぬ 人のく 昔  
 と乃しは 空暖 けと 晴 昔 殊の日 出て ありく 昔  
 とのしは 朝 ありて 昨日 まで 無り 昔 苔の 咲け 見え 昔

お疲れさま でした



T 000 1 - 000 24 - 003